

小学校第2学年 道徳学習指導案

平成29年11月13日(月) 第5校時

児童数 20名

授業者 四万十市立中村南小学校 山下 久美

1 主題名

生きものにやさしく 【自然愛護】 低D- (18)

2 ねらいと教材

(1) ねらい

虫に愛着を持って接しているアンリ・ファーブルの姿を通して、身近な自然に親しみ、動植物に優しく接し、大事に守り育てようとする心情を育てる。

(2) 教材名

虫が大すきーアンリ・ファーブルー<わたしたちの道徳 小学校1・2年 文部科学省>

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

中心とする指導内容はD「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の(18)「自然愛護」である。動植物は自然環境の中で、それぞれの環境に適応して生活を営んでいる。人間も自然から様々な恩恵を受け、自然と調和を図りながら生活を営んできた。科学技術の進歩に伴って自然が減少し、環境破壊が進んでいく今、動植物と人間が共存していくために、自分たちができることは何かを考え、共に生きていこうとする素地を育てていく必要がある。

低学年の時期は、身近な自然の中で楽しく遊んだり、動植物と親しんだりする活動を行うことが多い。また、生活科の学習でも、自然や動植物などと直接触れ合う多くの体験をしている。この時期にそれらの活動や体験を通して、動植物のもつ不思議さや命の大切さを感じ、優しい心で接し、大事に守り育てようとする心情を育むことは意義深いと考える。

(2) 児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、

～中略～

(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材は、フランスの生物学者、「ファーブル昆虫記」の作者でもあるアンリ・ファーブルの話である。ファーブルは子どもの頃から虫が大好きで、いろいろな虫に興味や疑問を持って観察していた。大人になってからは虫を詳しく調べるようになり、観察後の虫を逃がすときには感謝の気持ちを持って、虫を元の場所へ優しくもどした。そんなファーブルの姿から、生き物に愛着を持って接し、動植物を大事に守り育てることについて考えることができる教材である。

本時の指導では、ファーブルが虫に対してどんな思いで接していたかを考えさせるとともに、虫を観察後、虫を逃がす場面を動作化することによって、ファーブルの優しさにも触れさせたい。振り返りでは、今まで自分が生き物にどのように接してきたかを思い起こし、これから、どうやって接していきたいかについて考えさせたい。今年度の本校の研究主題は『自己の生き方をみつめる児童の育成～道徳科の研究を通して～』である。生き物に愛着を持って接するファーブルの姿を通して、動植物に対する自分の行動等を振り返り、今後どのように接していきたいかを考えることによって、自己の生き方をみつめ、研究主題へとつながっていくものとする。

4 学習指導過程

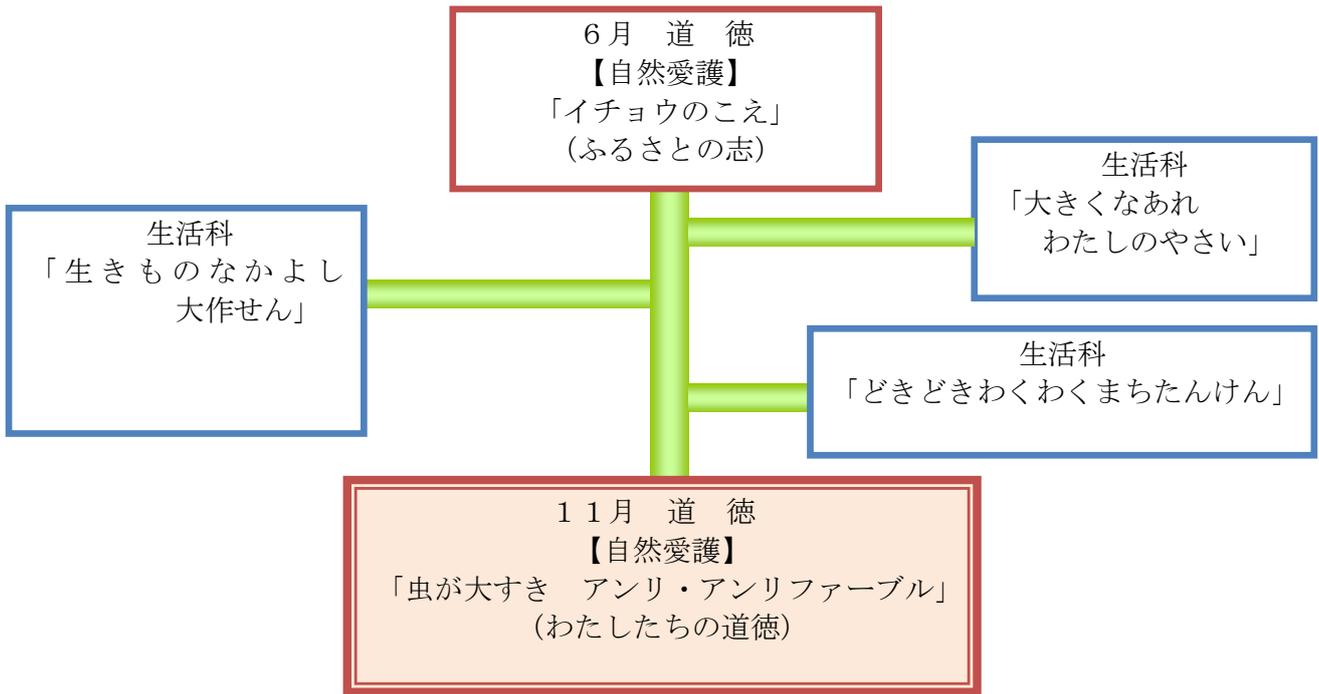
	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1. 学校生活の中での動植物に関する写真等を見せる。	○私たちの身の周りには、どんな生きものがいますか。 ・バッタ、トンボ、カマキリ、メダカ ・アサガオ、チューリップ	・ミニトマトや虫さがしの写真を見せ、生活科での体験を想起させ、ねらいとする資料への方向づけを行う。
展 開	2. 教材「虫が大すき アンリ・ファーブル」を読む。 (1) 子どものころのファーブルの気持ちを考える。 (2) 大人になったファーブルが虫を自然にもどした時の気持ちを考える。 3. 振り返りをする。	○ファーブルはどんなことを考えて虫を見ていたでしょう。 ・ふしぎだなあ。 ・すごいなあ。 ・おもしろい。ずっと見ているあきないなあ。 ◎ファーブルはどんなことを思いながら、虫を逃がしたと思いますか。 ・かんさつをさせてくれてありがとう。 ・おかげで勉強になったよ。 ・これからも元気にすごしてね。 ・どんどん大きくなってね。 ・好きな場所へ帰ってね。 ・おうちへお帰り。 ○これから身の周りの生き物と仲良くしていくにはどんなことが大事でしょう。 ・エサを忘れずにあげたい。 ・さわる時は、そっとやさしくさわる。 ・住みやすい場所に逃がしてあげる。 ・花や野菜の水やりを忘れない。 ・水槽の水かえをする。	・教材を読む前に、アンリ・ファーブルの写真を見せ、「ファーブル昆虫記」の紹介もする。 ・虫を見て「ふしぎだなあ」「すごいなあ」と思った体験を出し合い、ファーブルに共感させる。 ・ワークシートに書かせた後、グループトークをさせる。 個 ワークシートが書けない児童には、挿絵の表情を示す等の支援をする。 個 グループトークで参加しづらい児童のそばに行き、言葉を足す等、発表の補助をする。 ・ファーブルが虫を自然にもどす場面を動作化させ、ファーブルの気持ちに共感させる。 【深めの発問】 ・こんなファーブルをどう思いますか。 ・ファーブルは虫や生き物のことをどう思っているのでしょうか。 ・身近な動植物への今後の接し方について考えさせ、道徳ノートに書かせる。
終 末	4. 映像を見る。	○今日の学習を思い浮かべながら、テレビの映像を見ましょう。	・映像を見せ、余韻を残して終わる。

【評価】

※自然に親しみ、動植物に優しい心で接し、動植物を大事に守ろうとしている。(発言、ワークシート、道徳ノート)

○準備物 挿絵、ワークシート、道徳ノート、木の幹と虫の模型(動作化用)、映像(テレビ)

5 他の教育活動との関連



6 板書計画

